

- Area Detector CT
「Aquilion ONE / GENESIS Edition」
- マルチスライスCT
「Aquilion PRIME」
「Aquilion Lightning」
- 1.5テスラMRIシステム
「Vantage Elan」
- X線循環器診断システム
「Infinix Celeve-i INFX-8000C」
- 乳房X線撮影装置
「Pe・ru・ru DIGITAL」
- 回診用X線装置
「Mobirex」
- 超音波診断装置
「Aplioシリーズ」「Xarioシリーズ」
- 放射線治療部門情報管理システム
「Rapideye Agent RT Pro」

テーマ Made for Life

800㎡の広大なブースでITEM初展示の新製品や最新技術を効率よく紹介するために、「Healthcare ICT」をはじめ各エリアを分かりやすく区分していた。来場者の関心が高かったのは、ブース左に設置したArea Detector CT「Aquilion ONE / GENESIS Edition」であった。

Area Detector CT 「Aquilion ONE / GENESIS Edition」

被ばく低減、画質とスループットのさらなる向上を目指し、独自技術の採用やガントリ設計の一新などの改良を施した最新バージョンのArea Detector CT。4月7日に発売。

同装置の特長は、X線出力から検出器に至る過程において被ばくと画質を決定づける要素を徹底的に見直し、さらなる低被ばく化と高画質化を追求した点にある。例えばX線検出部に独自のX線光学系技術を実装することで、被ばく低減と高精細画像を両立。また、新開発エリアファインダの採用により、ボリュームスキャン時の撮影範囲の直接視認が可能となった。これにより位置決め撮影が不要となり、被ばく低減に貢献する。さらにガントリのチルト角（傾き）を従来の22度から33度まで拡張したことで、撮影体位の対応度が向上。これはスループットの向上に奏功する。

その他、ガントリサイズを同社64列CT「Aquilion

NEW



Aquilion ONE / GENESIS Edition

64」よりも抑えたことで、検査室の最小設置スペース19㎡を達成。また、待機電力を従来比で25%低減するなど、省エネ運用への対応も同装置の特長である。なお同装置には、「Aquilion ONE / VISION FIRST Edition」に続き、新しい逐次近似再構成法の「FIRST」を標準搭載する。

1.5テスラMRIシステム 「Vantage Elan」

2013年11月に国内販売を開始した1.5テスラMRIで、これまでに日本を含む全世界で約360台を販売。高画質に加え、設定操作の自動化による装置の操作性や省スペース設置などが特長となっている。15年11月には最新バージョン「eS Edition」のグローバル販売を順次開始。同バージョンには専用のハードウェアを搭載したRFコイルを導入し、さらなる高画質化を追求。各部位の撮像用に最適化した部位別専用パッドを付属品として用意した。また、金属アーチファクト低減技術「VAT」、2種類のT1で白質と灰白質のコントラストを向上させる「DIR」、FBIの最新撮像アシスト機能「DelayTracker」を、新アプリケーションソフトウェア「M-power V3.1」として導入。



Vantage Elan

X線循環器診断システム 「Infinix Celeve-i INFX-8000C」

新型天井走行式Cアームによる最速80度/秒、約3秒での3D高速撮影機能や、DoseRite DTSなど線量マネジメントコンセプト機能の設定が特長のX線循環器診断システムである。2015年4月に発売された。ITEM2016には、操作性・画質・線量の最適化を図るための技術の総称「Rite Edition」を最新バージョンに進化させたモデルを展示。「Rite Edition」により、高画質および患者・術者の被ばく低減や被ばく管理の向上、検査時間の短縮などの実現を目指している。

新しい「Rite Edition」は、①LCI高速撮影、②ROI Fluoro、③オートピクセルシフト、④Vitrea DTS情報管理で構成される（①以外は新規導入）。うちROI Fluoroは、手技の質を維持しつつ線量低減を可能に

NEW



Infinix Celeve-i INFX-8000C

する技術。オートピクセルシフトは、新画像処理と組み合わせることで、DSA画像のマスクずれを自動的に軽減するテクノロジーである。



Mobirex

回診用X線装置 「Mobirex」

2015年11月にワイヤレスFPD組み合わせ対応に進化した最新の「Mobirex」を展示。FPDは東芝電子管デバイス製で、14×17インチ半切カセットサイズの無線タイプ。デジタル画像処理装置に着脱式タブレットPCを新採用しており、撮影直後にPCを取り外して離れた場所にいる医師の元へ移動しての画像提示などが可能となる。その他、DICOM MWMやストレージを標準搭載し、MicroSDカードによる画像のバックアップができる。また、デザイナーによる装置のラッピングにも対応。



Pe・ru・ru DIGITAL

乳房X線撮影装置 「Pe・ru・ru DIGITAL」

「Pe・ru・ru DIGITAL」は、マンモグラフィ専用FPDを搭載した乳房X線撮影装置で、乳房の微細石灰化や腫瘍の描出性能や700mmのSIDによる広い作業空間などが特長。最新バージョンの展示モデルは、超音波シェーマ上にスキャン範囲を表示して超音波検査をアシストするエコーガイドスキャンを搭載。この新機能により、マンモグラフィと超音波検査の併用検診時にマンモで疑いが持たれた病変を、超音波検査で確実にスキャンできるようにする。



Aplio 500

超音波診断装置 「Aplio シリーズ」

2014年1月に「Aplioシリーズ」に搭載可能となったイメージング技術「Superb Micro-vascular (SMI)」を採用したPlatinum Seriesを展示。SMIは造影剤を使わなくても微細かつ低流速の血流描出を可能にする技術であり、全身に対応可。特に皮膚がんや膀胱がん、肝細胞がんの検査において有用性を発揮するとされている。なお、SMIは15年の日本超音波医学会において「第15回技術賞」を受賞。